

全てのセキュリティ機器が過去になる

防犯監視システム

DEFENDER-X

防犯監視システム〈DEFENDER-X〉は、人の精神状態（感情）を自動解析し、犯罪の可能性がある人物などを事前検知する今までにはないセキュリティシステムです。

既存の監視カメラシステムへの付加も容易で、用途に合わせ様々な活用が可能！

新たな技術で、安心・安全な社会づくりに貢献します。

検知人数に対する不審者の割合 = **92%**
(不法所持72%、異常行動8%、その他20%)

DEFENDER-Xの特徴

- ① 建物などへの入場時点で不審者を検知することにより、犯罪の未然防止が可能。
(従来の監視カメラシステムでは、犯罪の記録としてのみ効果を発揮)
- ② 照合用データベースが不要、不特定多数（10人程度）からの不審者検知が可能。
(犯罪者のデータベースとの照合では、データ外の検知は不能)
- ③ リアルタイム映像だけでなく、録画映像での不審者検知も可能。
(犯罪者の特定と事件の早期解決に寄与)
- ④ 公共交通機関、施設の警戒・治安維持、マンション等施設の入場監視、デパートやスーパー等での万引きなど、さまざまな用途に活用可能。
- ⑤ 既存の監視カメラシステムへの付加が容易、既存のシステムに影響を与えない。
(カメラや録画装置の活用により、省コストでの導入が可能)

運用例

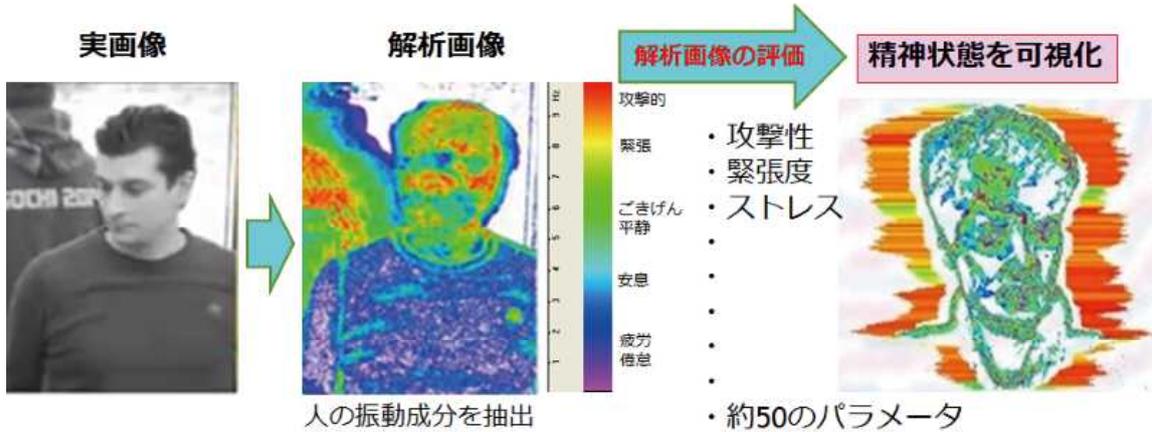


警報が発報された場合、近くいる警備員に連絡を行い不審者のマークを行うか、検知場所付近の PTZ カメラで不審者をトラッキングするなどして経過を観察します。

カメラから不審者をいち早く検知し、犯罪を未然に防止

ソチオリンピック・伊勢志摩サミットでも導入。東京オリンピック採用決定！！

DEFENDER-Xの原理



監視カメラの映像から人の振動成分を抽出し、振動成分を解析することにより約50種類のパラメータを導き出します。

このパラメータから、その瞬間における対象者の精神状態を分析します。



防犯監視システム（DEFENDER-X）は、測定した精神状態のうち怪しさレベルを評価し、設定された警告レベル以上となった場合に不審な人物（何らかの犯罪を犯す可能性がある人物）として、赤枠の付与、検知時のスナップショットの取得、アラーム音を発し、監視者に注意喚起を行います。

日本テレビ「世界まる見え！テレビ特捜部」TBSテレビ「がっちりマンデー！！」
「林先生が驚く初耳学！」等多数の番組で紹介されました

システム的设计・開発からOA機器の販売メンテナンスまで

dba

株式会社 九州ジェービーエー

(本社・延岡・都城・熊本・福岡)(九州JBA)

(JBAグループ)

担当事業所

SI

システム・インタフェース 株式会社 (SI)

(本社)〒880-0866 宮崎県宮崎市川原町4-19

お問合せ先 電話：0985-89-3337 FAX：0985-20-3325

(営業本部)〒885-0013 宮崎県都城市郡元町2916-25

電話：0986-26-0267 FAX：0986-27-1594

担当直通携帯 神田橋：080-1771-5434

山本：080-5253-4311